

事業報告

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済をみると、トランプ関税の影響などから外需がマイナス圏に沈むなど一部にやや弱さが見られたものの、個人消費が拡大基調を維持したほか設備投資もおおむね堅調に推移するなど、全体として底堅い動きとなりました。

一方、県内経済は、公共工事が前年を上回って推移し、生産活動も堅強な動きとなったが、住宅着工は前年を割り込む局面が継続したほか、個人消費も弱含みの展開となるなど、一部に明るさが見られたものの全体としてやや弱い動きとなりました。

こうした中、当社においては、持続的な経営に向けた取組を強化するため、2026年3月14日に運賃改定を実施した他、運行ダイヤの改良による利便性の向上、トリップアドバイザーなどによる外国人向け情報発信の強化、DXを活用した予約システム導入や三鉄ファンや鉄道ファン向け商品開発の展開など、経営改善に向けた新たな取組を進めました。

また、さくら浪漫号夜桜列車(4月)、ウニ列車(5～6月)、サーモン列車(6月)、海街ワイン列車(7月)、かいけつゾロリ列車(7～8月)、あわび列車・まつたけ列車(10月)、クリスマス列車(12月)、初日の出号(1月)、こたつ列車・洋風こたつ列車(12月～3月)等による企画列車の運行、震災学習列車や団体旅行ツアー等による貸切列車の運行、ふるさと納税制度を活用した運転士体験などにより利用者促進及び収入の確保に努めました。

このほか、お絵かき遠足列車(5～10月)、小中学生特別回数乗車券や山田町中学生地域限定回数乗車券の販売、宮古市中学生フリー定期券の配付等により、園児や児童・生徒の乗車機会の創出を図るとともに、Instagramによる情報発信や動画投稿キャンペーンを実施するなど若年層の関心を高める取組を進めました。

この結果、輸送人員は、沿線の少子化等に伴う定期利用が減少したことや、津波警報や北海道・三陸沖後発地震注意情報の影響による観光客の利用減少により前年度比90.9%の548,648人となり、鉄道事業収入も、定期、観光利用の減少により前年度比93.5%の378,027千円となりました。

関連事業収入では、旅行業において震災学習列車や団体扱いの売上減により前年度比96.1%となりました。物産事業においては、常設店舗や、沿線の道の駅等での委託販売の売上が増加したことにより前年度比107.7%となり、関連事業収入全体では前年比111.1%の52,566千円となりました。

経常費用については、令和6年台風5号災害や、令和7年大船渡市大規模林野火災での代行バス費用や人件費、水道光熱費等が減少したことにより、前年度比96.4%の1,120,378千円となりました。

その結果、経常利益は▲677,551千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は▲58,850千円と前年度と比べて26,698千円の減益、計画と比べて52,864千円の減益となりました。

なお、当社では、安全・安心な輸送を確保するため、トンネルの改修や、マクラギのPC化工事、列車無線設備、継電連動の更新工事を行っているほか、社員の外部訓練会、研修会への派遣など障害や事故の防止に取り組み、鉄道事故0件を継続しています。

【損益の状況】

(単位：千円※税抜)

項目	2025年度 実績	2024年度 実績	前年度 増減	前年度 比	2025年度 計画	計画増減	計画比
鉄道事業収入	378,027	404,231	▲26,204	93.5%	451,214	▲73,187	83.8%
関連事業収入	52,566	47,317	5,249	111.1%	55,843	▲3,278	94.1%
営業外収益	12,234	31,333	▲19,099	39.0%	10,400	1,834	117.6%
経常費用	1,120,378	1,162,336	▲41,958	96.4%	1,185,496	▲65,118	94.5%
経常利益	▲677,551	▲679,455	1,904	—	▲668,039	▲9,512	—
特別損益	624,790	653,484	▲28,694	—	668,757	▲43,967	—
法人税等	6,089	6,181	▲92	—	6,704	▲615	—
当期純利益	▲58,850	▲32,152	▲26,698	—	▲5,986	▲52,864	—

2 営業の概況及びその成果

(1) 鉄道事業営業概況

① 輸送実績

2025年度の乗車人員については、沿線の少子化等に伴い定期が前年度比90.0%の297,104人となったほか、定期外が地元利用や観光利用の減少により同92.0%の251,544となり、全体では同90.9%の548,648人となりました。

運輸収入については、定期・定期外ともに減少となり、定期が前年度比89.0%、一般個札が同97.4%、観光個札が同98.2%、一般団体が同81.3%、観光団体が同91.5%となったことなどにより、全体では同93.7%の316,972千円となりました。

○リアス線全体乗車人員

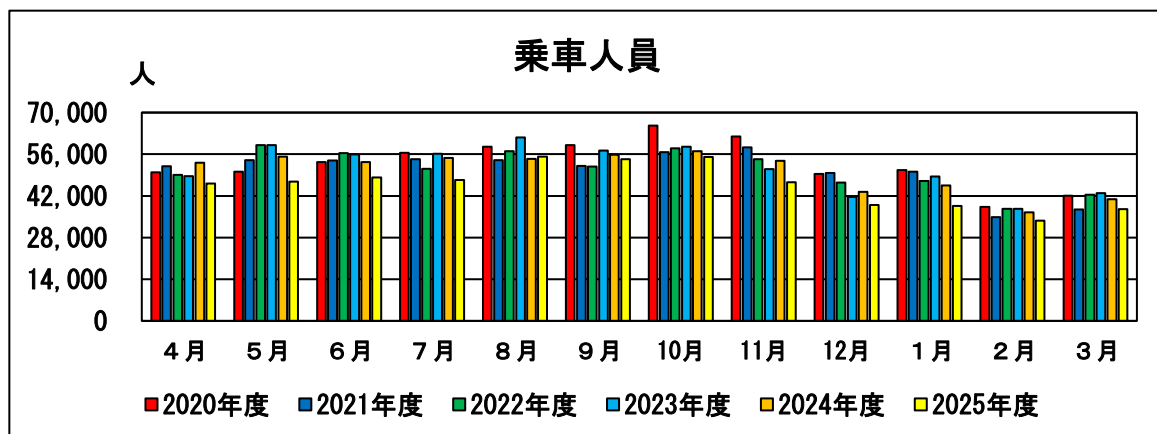
(単位：人)

項目	2025年度	2024年度	増減	前年度比
乗車人員	548,648	603,730	▲55,082	90.9%
定期	297,104	330,168	▲33,064	90.0%
定期外	251,544	273,562	▲22,018	92.0%

○線別乗車人員※1

盛～釜石間	103,032	109,667	▲6,635	93.9%
釜石～宮古間	235,959	256,253	▲20,294	92.1%
宮古～久慈間	264,950	302,208	▲37,258	87.7%

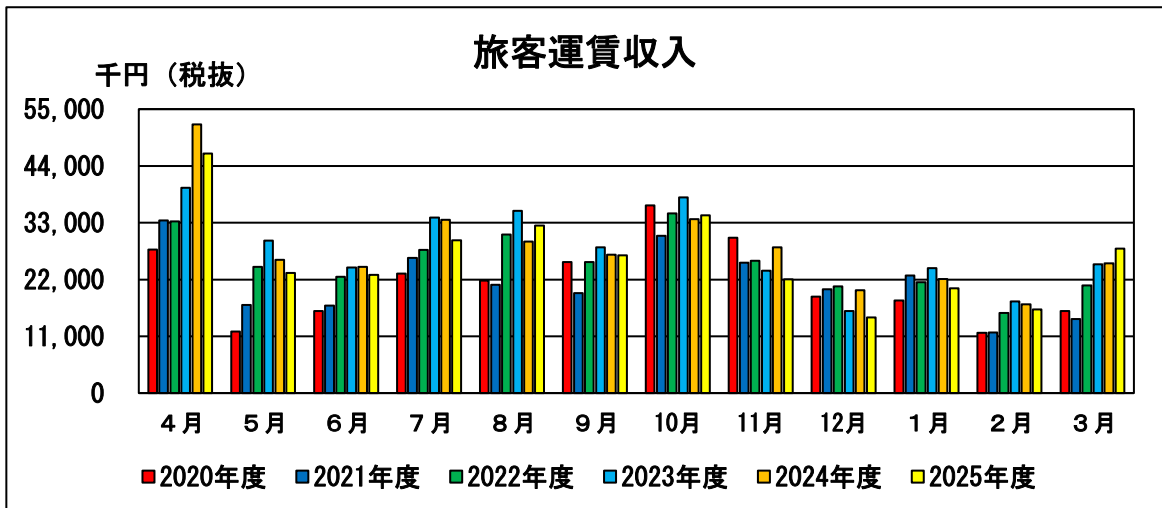
※1 線別乗車人員は、各路線を跨る乗車の場合、それぞれ1人乗車とカウントしてあるためリアス線全体の合計とは一致しません。



○運輸収入

(単位：千円※税抜)

項目	2025年度	2024年度	増減	前年度比
運輸収入	316,972	338,325	▲21,353	93.7%
定期	68,041	76,480	▲8,439	89.0%
定期外計	248,931	261,845	▲12,914	95.1%
一般個札	145,531	149,353	▲3,822	97.4%
観光個札	47,155	47,998	▲843	98.2%
一般団体	22,157	27,256	▲5,099	81.3%
観光団体	34,088	37,238	▲3,150	91.5%



② 運転状況

2025年度の定期列車については、1日当たり、盛～釜石間で22本、釜石～宮古間を同じく22本、岩手船越～宮古間で1本、宮古～久慈間で24本を運転しました。

【運転状況】

駅間	盛～釜石	釜石～宮古	岩手船越～宮古	宮古～久慈
列車本数	22本	22本	1本	24本

③ 観光列車及びイベント列車等

通常運転の列車に加え、観光列車及び地元団体や企業との共催によりイベント列車を随時運転しました。

なお2025年度は、「洋風こたつ列車」・「こたつ列車」や「かいけつゾロリ列車」・「ユニ列車」・「あわび列車・まつたけ列車」などを運転しました。

また、ヘッドマーク掲出やラッピングの実施等、他社と連携した企画も積極的に実施しました。

【主な観光列車】

- ・洋風こたつ列車 宮古～釜石駅間 (12月6日～2月28日の土休日)
- ・こたつ列車 宮古～久慈駅間 (12月6日～3月8日の土休日)

【主なイベント列車】

- ・さくら浪漫号夜桜列車 (4月11日 1回)

- ・かいけつゾロリ列車
宮古～島越駅間（7月19日～8月11日 7回）
宮古～久慈駅間（8月16日～8月31日 6回）
- ・ユニ列車 久慈～宮古駅間（5月17日～6月15日の土休日 10回）
- ・あわび列車・まつたけ列車
盛～釜石駅間（10月4日～10月26日の土休日 7回）
- ・サーモン列車（6月14日 1回）
- ・海街ワイン列車（7月12日 1回）
- ・初日の出号（1月1日 1回）
- ・女子が楽しむ日本酒列車（3月21日 1回）

【他鉄道会社との共同企画列車】

東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社

- ・観光列車「ひなび」（9月21日） リアス線宮古～久慈駅間へ乗入
- ・リアスうみねこライナー（10月18～19日） JR八戸線へ乗入（盛～八戸駅間往復）

【その他】

- ・宮古市中学生フリー定期券交付実証事業（7月～9月）
- ・中高生フリー乗車券（釜石～宮古駅間）を販売（7月19日～）
- ・ワンコインフリーパスを販売（8月16日～11月1日）
- ・セブン・イレブン店舗内マルチコピー機でフリー乗車券販売（2023年12月15日～）
- ・岩手ビッグブルズ応援特別乗車券（2月20日～3月24日）
- ・小中学生用特別回数券を発売（2021年12月1日～）
- ・山田町中学生地域限定回数券を発売（2020年10月1日～）
- ・デジタルスタンプアプリ「エキタグ」設置（2024年1月1日～）
- ・宮古市「みやこお出かけ回数券」を販売（2026年1月14日～）
- ・いわて県民回数券を販売（2026年3月14日～）

④ 鉄印帳の発売（2020年度から継続）

- ・第三セクター鉄道等協議会加盟 40 社共同企画として鉄印帳を発売

⑤ インバウンド対応

- ・大型客船入港に合わせた対応
個人観光客用のバウチャー券発売
旅行会社主催のOPツアーに合わせた貸切列車の運行
- ・外国人団体利用 51 件 1,346 名
(台湾 46 件 1,232 名・タイ 1 件 18 名・香港 1 件 8 名・その他 3 件 88 名)

⑥ 企業等との連携

- ・企業ヘッドマーク及び車両ラッピングの実施
ヘッドマーク ブラザー工業(株)、岩手日報広告社、KDDI(株)、(株)阪急交通社等
車両ラッピング イオン東北(株)、(株)東北銀行、一社ブルーオーシャン岩手等

(2) 関連事業営業概況

① 旅行業

2025年度は、昨年度に引き続き三陸ジオパーク推進協議会、三陸DMOセンターや(一社)浄土日和と連携した「トレイン&トレイル」企画や予約システムを導入した個人向け旅行商品の販売により収入の確保に努めました。

また、募集型企画の「かいけつゾロリ」企画は好調を維持しているほか、震災学習列車も県内外の学生を中心に利用者数が6,000人を超える利用となりました。

【主な旅行業の実績】

- ・着地団体：オリジナル震災復興研修 3件 68名参加 (前年度4件 73名)
- ・一般団体：大型客船寄港OPツアー 2件 133名参加 (前年度3件 242名)
- ・募集团体：かいけつゾロリ列車企画 13回 330名参加 (前年度10回 158名)
- ・震災学習列車：160件 6,680名参加 (前年度174件 7,038名参加)
- ・トレイン&トレイル：5件 89人
- ・三鉄沿線の旅：98件 149人

② 物産事業

ア 直営店「さんてつや」の営業

沿線市町村を中心とした特産品やオリジナルグッズを販売(店舗売上 37,300千円)。

イ オンラインショップの運営

当社オリジナルグッズを中心に販売を強化したほか、定期的にセールを実施し、売上強化に努めました(売上 17,081千円)。

ウ オリジナル商品の開発・販売

「さんてつポスター2025」、「三鉄プレミアムラガー2025」、「三鉄ポストカード」
「さんてつポロシャツ 2025」、「さんてつプレミアム缶詰」、「さんてつカレンダー2026」
「三鉄ダイアグラム(イベント販売用)」 計7品

・三鉄ギフト(夏・冬)の販売

夏(6月~8月)[7,073千円]・冬(11月~1月)[7,505千円]

・地元菓子店「DOUNEL」とのコラボレーションによるバレンタイン企画を実施 「久慈ありすバレンタインケーキ2026」・「釜石まなバレンタインケーキ2026」

エ イベント外販

・沿線市町村・関係団体等との連携によるイベントへの出店(34回)。

オ ふるさと納税返礼品対応

件数：58件 取扱額 558千円

(3) 安全安定輸送への取組

当社においては、安全、安心でかつ安定的な運転の確保に努めており、2025年度も老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次、実施しました。

なお、保安設備についても新增設が必要な個所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

また、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

① 安全対策事業

・鉄道軌道安全輸送設備等整備事業

リアス線・佐野トンネル外1トンネル改修工事

リアス線・盛～陸前赤崎駅間・宮古～一の渡駅間マクラギPC化工事

リアス線・盛駅・綾里駅・三陸駅継電連動更新工事

リアス線・盛～釜石駅間列車無線設備更新工事

② 保安対策事業

・外部訓練会・講習会への参加

・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施

・異常時対応の実車訓練を実施（踏切事故）

(4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、今期においては、次のとおり支援を受けました。

・運営費補助（設備維持補助）	289,211 千円
・鉄道安全輸送設備等整備事業補助	426,594 千円
・三陸鉄道経営移管交付金	189,546 千円
・三陸鉄道経営安定化対策交付金	190,000 千円
・宮古市中学生フリー定期券交付実証事業費補助金	450 千円
・インバウンドプロモーション支援事業補助	99 千円
・三陸鉄道運営費補助（林野火災）	2,945 千円
・地域観光魅力向上事業補助	5,127 千円

3 対処すべき課題

2025 年度（第 45 期）は、関連事業収入が増加したものの、沿線の少子化に伴う定期利用の減少、津波警報や北海道・三陸沖後発地震注意情報の影響など鉄道運輸収入の減少により経常収益が減少しました。

また、修繕費や固定資産税等の増加により経常費用も前年度並みとなり、経常損益が減益の厳しい経営状況となりました。

2026 年度（第 46 期）も、安全で安心な輸送の確保を基本としながら、引き続き沿線住民のマイレール意識の高揚に取り組むとともに、これまで国内外からいただいた支援への感謝を伝え、SDGs（持続可能な開発目標）を常に意識し、持続的な鉄道事業及び関連事業を行い、更なる利用促進・増収に向けた取組を強化していきます。

特に、今年度末に実施した運賃改定を踏まえたサービスの向上、地域住民向けの新たな回数券など、増収に向けた経営改善に邁進するとともに、インスタグラム、トリップアドバイザー、予約システムなどを効果的に活用し、情報発信や利便性の強化に向けた取組を進めていきます。そして、トレイルやサイクリング、花畑観賞など、健康増進や生きがいづくりにつながる列車や観光切符等により誘客を図ります。さらに、台湾鉄路との姉妹鉄道協定 10 周年を契機とした台湾誘客の強化や、震災から 15 年の節目の年であることを踏まえた一層の利用促進を展開します。

また、令和 7 年 1 月に計画変更に伴い再認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」に則り、

「安全・安心で質の高い輸送サービスの確保」、「利用促進等による収入の確保」、「一貫運行による経営の改善等」に引き続き取り組み、安全性・利便性の向上や投資計画・経費構造の抜本的な見直し、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を図っていきます。

4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 468,182 千円であり、その内容は次のとおりです。

○ 鉄道安全輸送設備等整備事業補助金	426,594 千円
(1) リアス線・佐野トンネル外 1 トンネル改修工事	35,786 千円
(2) リアス線・盛～陸前赤崎駅間・宮古～一の渡駅枕木 P C 化工事	152,953 千円
(3) リアス線・盛駅・綾里駅・三陸駅継電連動更新工事	122,975 千円
(4) リアス線・盛～釜石駅間列車無線設備更新工事	114,880 千円
○ 三陸鉄道運営費補助金（設備維持補助金）	21,500 千円
(1) 軌道モーターカー修繕工事	17,000 千円
(2) 変圧器更新工事	4,500 千円
○ 三陸鉄道経営移管交付金	20,088 千円
(1) 宮古車両基地給排水設備修繕工事	648 千円
(2) 第三八木沢橋りょう土留改修外 1 改修工事	12,040 千円
(2) リアス線・岩手船越駅外 2 防草シート設置工事	7,400 千円

5 直前 3 事業年度の財産及び損益の状況

区 分	2022 年度 (第 42 期)	2023 年度 (第 43 期)	2024 年度 (第 44 期)	2025 年度 (第 45 期)
営業収益	436,165 千円	457,676 千円	482,881 千円	442,827 千円
当期純利益	▲806 千円	26,778 千円	▲32,152 千円	▲58,850 千円
1 株当たり当期純利益	▲26 円	875 円	▲1,050 円	▲1,923 円
総資産合計	910,244 千円	1,492,865 千円	1,269,730 千円	983,897 千円

6 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第 1 種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第 2 種旅行業
- (3) 物品販売業

7 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町 4 番地
事業所	・ 事業本部 宮古市栄町 4 番地
	・ 運行本部 宮古市宮町 1 丁目 1 - 19
	・ 施設本部 宮古市宮町 1 丁目 1 - 50
	・ 旅客営業部 宮古市宮町 1 丁目 1 - 80
	宮古駅 宮古市宮町 1 丁目 1 - 80
	・ 大船渡派出所 大船渡市盛町馬場 4 - 4

盛駅	大船渡市盛町東町裏 16
釜石駅	釜石市鈴子町 22-5
・久慈派出所	久慈市川崎町 10-20
久慈駅	久慈市中央 3 丁目 38-2

※市町村等への業務委託駅：大槌駅・陸中山田駅・岩泉小本駅・島越駅・田野畑駅
普代駅・陸中野田駅

8 従業員の状況

区 分	従 業 員 数	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 子	82 名	44.3 才	18 年 0 ヶ月
女 子	14 名	32.4 才	5 年 6 ヶ月
計	96 名	42.4 才	16 年 3 ヶ月

※ このほか臨時雇用従業員 24 名、パート従業員 1 名、岩手県から 1 名、東日本旅客鉄道(株)から出向 9 名を受入れています。

なお、2025 年 9 月 3 日付けで 1 名、9 月 30 日付けで 1 名、2026 年 1 月 31 日付けで 1 名、2 月 28 日付けで 1 名、3 月 15 日付けで 1 名、3 月 31 日付けで 1 名が退職いたしました。

9 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の 75.8% (23,200 株) の出資を受けています。

※ 岩手県 47.1% (14,400 株)、沿線市町村 22.2% (6,800 株)、沿線外市町村 6.5% (2,000 株)、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000 株
- 2 発行済株式の総数 30,600 株
- 3 当事業年度末の株主 46 名
- 4 主な株主の状況

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
岩 手 県	14,400 株	47.1%
宮 古 市	1,350 株	4.4%
(株) 岩 手 銀 行	1,200 株	3.9%
大 船 渡 市	1,150 株	3.8%
日 本 製 鉄 (株)	1,000 株	3.3%
東 北 電 力 (株)	1,000 株	3.3%
一 関 市	700 株	2.3%
久 慈 市	650 株	2.1%
釜 石 市	650 株	2.1%

III 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

(2026年3月31日現在)

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増 拓也	岩手県知事
取締役副会長	中村 尚道	宮古市長
取締役副会長	淵上 清	大船渡市長
取締役副会長	小野 共	釜石市長
代表取締役社長	石川 義晃	
取締役	平野 公三	大槌町長
取締役	佐藤 信逸	山田町長
取締役	佐々木 靖	田野畑村長
取締役	榎屋 伸夫	普代村長
取締役	小野寺 勝幸	野田村長
取締役	川原 一也	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	山崎 義広	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	村上 宏治	岩手県ふるさと振興部長
取締役	金野 淳一	
取締役	村上 富男	
監査役	岩山 徹	(株)岩手銀行 代表取締役頭取
監査役	石塚 恭路	(株)北日本銀行 代表取締役頭取

2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,040千円

監査役の報酬はありません。

IV 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。